

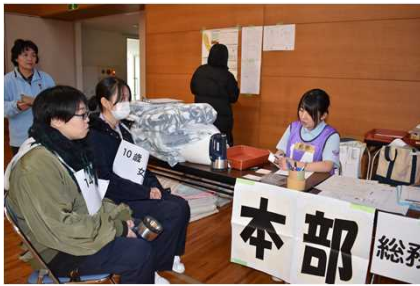


災害看護演習

2019.12.12

第二看護学科 2年生

災害看護では災害直後から支援できるための基礎的知識・技術を学びます。今回の演習では災害時の避難所における看護の役割を学ぶために、本校体育館を避難所に想定して模擬避難所を設置しました。学生と教員が被災者、学生が避難所の運営管理者となり、学校にある物品を活用し、被災者が安全で安心な生活が送れるようにみんなで相談しながら支援を行いました。



本部に相談している被災者



被災者の健康調査



運営者ミーティング中



旅行者が避難所を訪れた時の対応場面



伝言掲示板の活用



食事の配給

災害看護演習での避難所体験（運営側・被災者）を通しての学び

- ・被災者の方と共に協力していくことが必要であると学んだ。
- ・避難所で飢えや寒さ、人を探す伝言板などを体験し、災害から逃れたとしても辛く、不安な時間が続いていくことを知った。
- ・災害が起きたとき、自分が誰とどう連絡を取りどうやって行動すればよいのか学んだ。
- ・限りある物資をどう使って対応していけばよいのか、プライバシーはどのように守ればよいのかとも考えさせられた。
- ・災害時、避難所での生活がイメージできた。また、災害時に備えて各自で事前準備も必要であることがわかった。
- ・運営側も被災していると自覚して行動することも必要であり、他の被災地との連絡や被災者の心のケアの重要性を感じた。
- ・運営者、被災者関係なく、互いに助け合い、協力し合うことがとても大切だと感じた。
- ・日頃から災害に関心を持ち、自分にできることを意識することが大切である。
- ・被災者に不安を与えないように、避難所運営者の連携が重要であることがわかった。